

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女子

男子 女子 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
名古屋経済大学市邨	16	8	7	県立水海道第二
		8	14	
		7mTC		

準決勝で共に山口県勢を破った名経大市邨と水海道第二の対戦。名経大市邨は今大会、平均失点 18 と安定したDF と高さを生かした攻撃で準決勝以外は接戦をものにしてきた。対する水海道第二も平均失点 20 点、エース相澤の活躍で優勝候補の一角として安定した戦いぶりで決勝へ進出してきた。両チーム1年生の活躍が目立つのも特徴。

立ち上がりは両チームともリズムが作れず、攻撃の糸口が掴めない。4分43秒、均衡を破ったのは水海道第二5番相澤のロング。名経大市邨はポスト織田を使った攻撃で得た7mスローで追いつく。その後、15分過ぎまで一進一退の攻防が続くも。市邨キーパー神谷の好セーブ連発がムードを変える。27分・28分台の連続得点で、両チームにとって我慢の時間帯が続いた前半が1点差・ロースコアで終了した。後半は一転、スコアが動く。開始早々、水海道第二13番小林のシュート、名経大市邨4番野間のロングなどで点を取り合う。水海道7番江口のサイドシュートがたて続きに決まり、17分過ぎに逆転。続いて5番相澤のロングで2点差になったところで、名経大市邨タイムアウト。20番ポスト織田を使った攻撃で必死に追いつがるも、流れを引き寄せた水海道第二の猛攻で点差が開く。5点がついて終了のホイッスル。歓喜の輪がコートに。大会を通じて力を発揮した水海道第二。神戸の地で一足早い満開の花を咲かせた。

2016年 3月 29日

記載者氏名 沖野 勝洋